生流曼荼羅

NPO法人 熊野生流倶楽部

2008.4 VOL.4

特集

御燈祭り2008レポート

●第5回熊野塾ウォーク報告

●須賀利・玉置神社ツアー

大阪市中央区石町2-1-7 天満橋グリーンコーポラス1003号
（有限会社 環文化計画 内）〒540-0033
TEL.06-6147-4191 FAX.06-6147-4192
http : //kumanoseiryu.net

聖なる炎……御燈祭り

満仲雄二

今年の御燈祭りは、2008年の「子年」に行われ、しかもその夜は「新月の闇」…まさに真の闇からの「再生の聖なる炎」だと…大変深く感じた火祭りだった！

厄除け祈願・家内安全・立身出世…等々。ヒトそれぞれの御燈祭りがあり、それぞれの中に魂の光があり、古来それを再生する祭りなのだが、今回の御燈祭りは、例年よりグッと上り子の人数が少なかったように感じた。山上の岩場でも、ヒトとヒトの隙間が結構空いていて、フラダンスの縄のようにブラブラと、腰に吊していた12本もの代参松明に、今年は難儀せず火を点け易かったのだ。

この祭りには、すでに20回上らせてもらっているが、これほど火祭りの火・水（カ・ミ）の異変を感じた年は、今までに無かった。熊野に縁を結んで小生は20年…伊勢の式年遷宮では無いけれど、20年は因みに生命原理では「脱皮の時」なのである。日々目の前や足元を見つめて走りながら、折に触れ熊野の歴史的・社会的な意味を追いかけてきた道程も、ここで大きく変質するだろうと微かな予感があった。思議できないことが事変の時に起こると言う熊野の神仕組みを、熊野本宮の故：九鬼大宮司さんも生前おっしゃっていたけれど、神倉山の「ことびき岩」の横から見た黒潮の彼方の海の闇に、一瞬の閃光が走り去った。その時は、単なる雷光だろうと見過ごしていたモノのその光は記憶から離れずにいる。

今「火の炎」が変わり！「水の流れ」が変わる！…地球環境を形成するエコロジー「火」と「水」の仕組みが変ろうとしている！神倉の闇に、自らを捨て去りそして六根清浄（眼耳鼻舌身意）し、新たな炎で煩悩を焼き尽くせたのか？は、小生など凡夫にはわからないが、確実に地の底で何かが動いている！

「再生の聖なる炎」が各人の松明に

今年も無事に下山して笑顔

白装束で街中を練り歩き

王子が浜での禊ぎ風景

■御燈祭りに思う！

山本英世

今年も色々な方々のご協力のもと、御燈祭りを無事に皆勤参加させていただきました。ありがとうございました。

さてそんな御燈祭りですが、最近の地球温暖化の影響のせいか？この2～3年間の御燈祭りが少し変に感じます。2年前は雨ばかりで、松明に火が点かず、昨年は常夏のような暖かい御燈祭りと、極端に天候が対照的でした。…となると今年は何を感じる年か？私としては、今年はヒトでした。今回、身体がご不自由な方が頑張って上り子で神倉山に上るとのこと…この心意気に応えたく、スタッフの國方氏と私が身体をサポートし、御燈祭りに挑戦しました。

最初は急峻な上りも途中までしか行けないのではないかと、心配されていたその方の想いがいろいろな偶然？が重なり次々と難関を突破して制覇。神倉山への538段の石段を3人で無事に上がることができました。そして、御燈祭りの1から10まで全てを、身体の障害を乗り越えてやり切るという結果になりました。

熊野の神様のお導きもあったと思いますが、やはりこの結果は「一緒に上がるぞ！」とココロをひとつにした、オジサン三人が力を合わせた結果だと思います。これもまた御燈祭りのかけ声「頼むでェー！」の心意気だと知りました。

オジサン三人

満仲雄二

今年も無事に怪我もなくお燈祭りが終わり、宿泊は常宿の熊野川の「さつき」に泊まりました。食事の後、直会と言うか？宴と言うか？どこからともなくハーモニカの音色…！これを契機に賑やかに無礼講の宴会が始まりました。今年は特別に「聖なる炎」で新しい光が現れた、稀有な祭りだっただけに…まるで岩戸開きの神話さながらの様相になり、八百萬の神々は観客に、天のウズメの踊り子や、楽しい歌や音色もワイワイと、前代未聞の賑やかな宴が、深夜まで続きました。（実のところ、正確には明け方4時（笑）だね…！）

翌朝、「さつき」に訪れた成地仙人と一緒に記念写真

ごとびき岩

翌2日目は午前中、女性見学者も一緒に改めて神倉山に、御礼参りに上りました。夢は枯れ野を駆け巡る状態で、538段の石段には、白足袋やわらじ、白装束や松明の燃えかすなどがいっぱい…！昨夜のお燈祭りの勇敢で勇壮な様が伺い知れました。そして下山して、恒例の振る舞い善哉を頂き、一路熊野市へ。

途中、花の窟神社や黒潮の海を参拝し、神々のふるさとを堪能…熊野市駅前で熊野らしい新鮮で美味しい昼食を済ませ、尾鷲へと向かいました。

尾鷲では、地元の三鬼さんのご案内で、とっておきの美しい「土井竹林（地元個人所有）」を、特別公開でゆっくり観賞させてもらいました。その後、やはり勇壮な火祭りで有名な、ヤーヤー祭りが行われる「尾鷲神社」を訪ね、宮司さんに特別尾鷲太鼓まで聞かせて頂きました。今回も、三重県観光まちづくり公社の皆さんにお世話になり、思い出深い旅にする事ができました。

善哉を
美味しく
神倉神社へ御礼参り

尾鷲神社

尾鷲太鼓

土井竹林入口のトンネル

熊野の生命波動

玉置神社参拝ツアー

ノスタルジック

須賀利体験ツアー

加藤孝吉
廣田朱美

2007年12月1日～2日

今回のツアーは、三重県・熊野地方の町おこしの一環で、尾鷲・須賀利地域への体験ツアーを実験的に企画し、熊野生流倶楽部に関わる熊野ファンに体験してもらい、今後への参考意見を研究するための連携で、東紀州観光まちづくり公社と三重県立熊野古道センターの協賛として実施する運びとなったものです。ちょうど同じ時期に、玉置神社参拝ツアーを企画していたもので、募集や日程調整の関係から、同時開催というスタッフにはハードな選択となりました。

1日目は参加者全員で尾鷲を観光し、2日目は玉置神社参拝コースと須賀利体験コースに別れて、それぞれのコースを堪能しました。(総勢34名、玉置コース15名、須賀利コース19名)

初日は朝7時にJR大阪駅前をバス2台で出発し、一路尾鷲に向かい紀北町小山浦にある「長楽院」に昼頃に到着。ここでご住職の講話を聞き、短時間でしたが座禅を体験、その後にNPO天満浦百人会のお母さん方が、丹精込めて準備してくださった精進料理をいただきました。地元食材を使った郷土料理はとても珍しく、みなさん一口食べては「美味しい！これは何だろう？」と堪能されていました。

天満浦百人会のみなさん

猪ノ鼻水平道

腹ごしらえも終えて、ここから1日目のメインイベント…尾鷲湾を一望する「猪ノ鼻水平道」散策へ。「おわせふるさとガイドの会」会長の松井さんに、植生豊かな海沿いの山道を3時間かけて案内していただきました。森の中に入ると「バクチの木」等の珍しい樹木や植物、沢にかかる丸木橋や木々の間から見え隠れする尾鷲湾。終始…潮騒や鳥の声につつまれて気持ちよく歩くことが出来ました。

散策の後、熊野の檜木で作られた「三重県立熊野古道センター」で、熊野古道の映画や展示物・歴史資料を鑑賞し、尾鷲市内に古くからある銭湯でサッパリして、宿舎の民宿「風帆」に到着。一息ついて地元で取れた魚介類をふんだんに使った夕飯を、みんなで美味しくいただきました。食後はいろいろなグループに分かれ、宴会やおしゃべり、シンギングボールによる怪しいセッションも行われ、夜遅くまで賑わっていました。

2日目は、それぞれのコースに別れバスで出発。玉置コースは移動中に、熊野の仙人さんこと成地先生より「映画・地球交響曲の龍村仁監督の一行が、玉置神社参拝に行くかも知れない」との連絡が入り、バスの中はザワザワと…。私たちが玉置神社境内の入り口に到着すると、すぐ後ろから団体が到着。その中に熊野塾にも来られていた方が居り、思わず声を掛け再会の挨拶をしていたら、何と！龍村監督一行をご案内しているとのこと。また、龍村監督一行の主催者と、こちらのツアー参加者の一人が親友で10年ぶりの再会。そんな驚きの出会いで、本殿でのご祈祷や玉石社前での奉納演奏に同席させてもらい、思いがけず内容の濃い参拝となりました。当初の予定では、ゆっくり・のんびりと玉置神社で過ごす事になっていたのですが、予定外の行動に時間が無くなってしまい、急いで玉置山山頂へ登り、予定の時間に玉置山を出発しました。

玉石社前にて

2日目のもう一方の須賀利体験コースは、体験学習型と言う事で熊野生流倶楽部にとっても初めての試みになりました。

晴天に恵まれた朝、尾鷲港から巡航船に乗り込んだのは「須賀利」チームの面々。波しぶきを煌かせ、桃頭島(とがしま)などの島影を眺めつつ、船は入り江奥の海村「須賀利」へ進みます。「海の熊野古道」さながらです。昭和57年に陸路が開通するまでは三方を山に囲まれ、船での往来しかなかった須賀利は、昔ながらの漁村風景が残り、なんとも素朴な雰囲気のあるところです。

それでも江戸時代には、大阪と江戸を結ぶ船の「風待湊」として栄えたそうです。今では人口366人、戸数197戸、平均年齢63歳の過疎の村になりつつあります。そんな須賀利の知られざる魅力をPRすべく、熊野生流倶楽部も協力する事になり、今回の企画となりました。

到着した私たちを迎えてくださったのは、地元婦人会のお母さん達。その日のお昼ご飯は、もちろん海の幸なんですが…ただ食べるだけでは面白くない。自分たちで鯛をおろし、アジを開き、イカをさばき、押し寿司を作り等々、漁村体験型の特別ランチなのです。包丁さばきに自信ある人・ない人も、お母さん方の熱心な指導のもと、エプロン着けて大奮闘！最後の仕上げはお母さん達にお願いして、その間に村内の散策に出掛けました。

元お風呂屋さんのある通りが、車は通れなくても「本通り」。長い石段を上れば、須賀利の集落が一望できる普済寺。名物(？)の大変面白い住職さんは生憎の不在でしたが、竹中工務店の祖となる、宮大工さんの建築は必見でした。本当にいにしえにタイムスリップしたみたいで、ノスタルジックな時間の流れがなんともゆるやか…。最近、写真家やスケッチ愛好家に須賀利が注目されているのもうなづけます。

普済寺

お腹も空いたところで、料理していた会館に戻ると、美味しそうな海の幸料理の数々が並び、食べきれないぐらいのボリュームです。ここ須賀利の鯛は、都会では高級ブランドになっていて「さすがの逸品！」のお味でした。お土産までいただいて、ノスタルジック須賀利を後にしました。

次に和歌山県新宮市の熊野速玉大社へ参拝し、一路大阪へ…。

須賀利での体験と
楽しい食事風景

帰路途中の道の駅で玉置神社参拝チームとも、計ったように見事に再会を果たし、お互いのコースの自慢話で、盛り上がりは賑やかに最高潮！行く先は違っても「やっぱりこころはひとつ！」であることを実感したツアーでした。

第五回 熊野塾ウォーク

満仲雄二

紀伊路に入って2回目になる今回の熊野塾ウォークは、2007年11月3日の文化の日に行い、その出発点は、JR紀勢本線の紀伊宮原駅近くの「宮原の渡し場」で「道成寺」までの熊野古道を歩きました。

●みかんの花が、実を結んでいた宮原の渡し！

午前7時半にいつもの大阪中央郵便局前から熊野塾ウォーク御用達の特別マイクロバスで、一路和歌山方面へ出発。「天高く馬越える秋」…を地でいくような、清々しい晴天に恵まれた秋の一日を予感させるスタートでした。バスの中では、もう何度も聞いた(笑)熊野通へのお話しや、今日の行程を説明…一気に宮原の渡し場へ到着。ちょうど5月の熊野塾ウォークに此処で解散した場所。当時は、みかんの花が沢山咲いていた事を思い出しながら、現地集合の方々とも無事合流。緩やかな山並みに囲まれたのどかな地で、ゆっくりと流れる有田川に架かる宮原橋を渡りながら、昔の旅人はこの川の景色を見て「何を考えていたのかなあー」と言う思いが湧き上がってきました。対岸へ渡りすぐの、中将姫ゆかりの得生寺と糸我王子跡を散策し、退屈なアスファルト道をバスでワープ。途中、醤油発祥の地・湯浅でお店に立ち寄り、珍しい醤油アイスクリームや土産物に目を奪われたりしながら、一路川瀬王子をめざして移動。

湯浅醤油有限会社

得生寺

●熊野古道で現存する最古の503mの石畳路！

藤原定家の「御幸記」では「ツノセ王子(津の瀬)」と書かれてある川瀬王子跡から、いよいよ山麓へ入り馬留王子跡を経てさらに山登りが続いていく。立場跡と言う乗り物中継地があり、昔は駕籠はここまでで、これより先は牛馬の背に頼る事になったそうだ。急峻な坂道をやや汗ばみながら歩み続け、海抜354mの鹿ケ瀬峠で昼食休憩にする。地図ではこのあたりは、見晴らしがいいと書いてあったが、そう！季節によっては樹木が茂っていて、全く見晴らしなど無い状態のお昼ご飯を堪能。

峠を進むとそこは鬱蒼とした竹林の道で、空から射し込む陽光が美しく、さらに下ると熊野古道に現存する最長の石畳の道(日高町)に出会います。よく竹を見ると…このあたりの竹は、少し紫色がかった細めの黒い色の竹林で、ちょうどこの日は黒竹の生産量日本一の「黒竹の里：原谷」地区の「黒竹古道まつり」の日。吸い込まれるように、村の人々の「まあー、一杯どうやあー」と言う声に導かれ、おみそ汁は頂くはおにぎりは頂くは…(笑)帰りに美味しい漬け物までお土産に頂き、ウォークの列はちりぢりバラバラ。一本道だしどこかで会えるよ！と三々五々古道歩きを楽しむ状態でした。途中、金魚茶屋と言う「紀伊の国名所図絵」にも載せられている江戸時代の宿場があり、清流で金魚を飼って旅人の旅情を慰めていた、古き良きやさしい心に触れました。

黒竹古道まつり

●沓掛王子から道成寺へ

山道から麓へ下りてくるとそこは沓掛王子。熊野詣での帰り道では、此処で履き物を変えて山に臨んだのだろうと…当時の苦労をヒシヒシと感じながらも、長いアスファルトの車道を言い訳に、一気に高家王子跡と内原王子神社へワープして記念撮影の後、一路御坊・道成寺をめざして移動しました。

内原王子神社

道成寺は女人開運の寺として有名で、朱塗りの仁王門が印象的でした。境内では三重の塔が美しく静かにたたずんでいますが、娘道成寺で有名な安珍・清姫の物語をふと思い出し…「鐘の中に隠れた安珍もろとも焼き殺した清姫の情念の凄さ」を感じ、立ち枯れた「むろの木」の前で、世の男達を代表して「懺悔・懺悔・六根清浄…合掌！」していました。

女人開運の道成寺

さあー、次回は道成寺を出発地にして切目王子までウォークしますので乞うご期待を！

●編集後記

ちょっと懐かしい感のある特集記事です。「ちょっと!-ちょっと!-」と言われそうな情報紙の発行です。平身低頭、頭かきかき、皆様のお手元に届いた幣紙を年末年頭の思い出日記だと思ってお楽しみください。

熊野生流倶楽部「生流曼荼羅」編集部